

元気いっぱい 友だちいっぱい
すくすくお勉強 夢いっぱい
スマイルで学ぼう

横浜市立美しが丘小学校 平成27年10月30日



美小通信7

横浜市情報教育ネットワーク(YY ネット)上に本校のホームページがあります。
URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/utsukushigaoka/>

学校長 島山 真
青葉区美しが丘2丁目29
電話(901)3408

教育の現場で

副校長 深瀬須美子

休み時間になると図書室にたくさんの児童がやってきます。読み聞かせをしてくださるお話の時間の方々。図書整備や環境作りをしてくださっているコロボックルの方々。学校司書だけでなく今図書室には常時人がいます。昔のがらんとした人気のない図書室を思うと、本当にうれしい風景です。読書体験は心を育て学力の基礎を作ります。どんな本を読めばよいかわからない、そんな時には、はまっ子読書ノートを見てください。横浜市は毎年新一年生全員に配布しています。秋の夜長ちょっと家族で本を読むひとときはいかがですか。

水曜日の朝のチャレンジタイム。ラジオ体操をしたり大縄とびをしたり体を動かし、すがすがしい顔をしています。体を動かし味わう爽快感が生涯運動に親しむ人の育成につながればと願っています。

月曜日、素敵な歌声が響きます。全校のみんなで歌を歌う音楽朝会。「もっと笑って、そういい顔。」音楽の大幸先生の指揮のもとできれいな歌声が体育館に広がります。

秋、一生懸命育てた稲の収穫をしていた5年生、あさがおの種だけでなく小さな手でつるをていねいにとり作品作りをする1年生。「もし自分の目がみえにくかったら。」点字について発表していた4年生。きっと何かを感じ取ったことでしょう。

子どもは体験したことを言葉で表現することで実感的に分かり、深まるのではないのでしょうか。学校では、体験を重視し、感じたこと考えたことを交流、表現することで心を育て思考力を育てています。

このところ命の重さをどう実感させればよいのかと思う事件が続きました。失われた命は、永遠に帰ってこない。人の命の尊さを子どもたちに伝えていかなければと強く思いました。

岩手県大槌町には天国につながる「風の電話」ボックスがあるそうです。ガーデンデザイナーの佐々木格さんが自宅の庭においた電話ボックスです。東日本大震災でなくなった母に電話で話しかける兄弟。夫に頑張っていることを報告する女性。動物が登場する絵本「かぜのでんわ」を読みました。

3、4年生のコーナーに置かれている「えんぴつびな」という絵本。仲よくなった同級生が、自分の作ったえんぴつびなをくれ「あした、三にんかんじょもつくってきてやるよ」と言って別れた。その夜の空襲で永遠に会えなくなってしまった。たち切られ、会いたくても会えない悲しみが伝わってきます。

1979年にノーベル平和賞を受賞されたマザーテレサさんは、日本にいられたときに「人間にとって本当の貧しさとは、社会から見捨てられ、自分は誰からも必要とされないと思うことです」と話されたそうです。全校遠足の時に友達の水筒が無くなったと聞き一緒にずっと全員で探していたグループがありました。人の困り感を自分のこととして受け止めることができたことをうれしく思いました。

小さな積み重ねが、本当に人の尊厳を大切にできる子ども育成につながると信じ、たゆまずこつこつと、取り組んでいきたいと思えます。

オープンスクールにはたくさんの方に来ていただきありがとうございました。未来を担う子どもをこれからも家庭、地域の皆様とともに育てていきたいと願っています。どうぞよろしくお願ひします。

